

# 2017年度 自己評価（園評価）・学校関係者評価 結果公開シート

こどもの木かげ 玉成幼稚園

## 1. 基本理念・保育方針

### ■こどもの木かげ 2002 基本理念

『汝らは、地の塩、世の光である』（マタイによる福音書5章第13節―14節）

キリスト教の愛の精神を基とし、幼な子が、自ら生きる力を高め、豊かな個性を育むことをめざしています。

こどもの木かげ（玉成幼稚園・野のはな空のとり保育園）では、0歳から就学まで一貫した保育方針にもとづき子どもの育ちに取り組んでいます。

### ■玉成幼稚園 保育方針

個の生活と集団での生活がバランスよく営まれるように配慮しながら、友だちや周りの人たちに受け入れられていることを意識し、お友だちとの相互交渉を通じて「ともに生きる喜び」を身につけられるように育てていきます。

保育は、「子どもの心に絵を描かせる」時間と場所の提供であり、子どもの傍らには子どもを励ます保育者がいて、イメージや想像力をたっぷりと与えてあげられる保育の時間と、子どもが自分であそび、自分で学ぶことができるように工夫された保育の流れをつくっていきます。

こんな子どもに育ててほしい…アルウィン学園のめざす子ども像

- ①生きる力の礎である「自らの力で探求ししながら人とのかかわりをとおして生きる喜びや自己実現が達成」できるように
- ②「一人一人が違ってよい」興味や得意なことを伸ばし個性豊かなになれるように
- ③あそびをとおして感性や知的能力・創造性・社会性を体得できるように

## 2. 活動状況と自己評価

### 【基本事項】（こどもの木かげ共通）

#### ◆子どもたちが、自らの力でとりくむ姿勢が育ち、友だちとのかかわりを高め、育ち合っているか

子どもたちが興味・関心を持っていることに目を向け、遊びや活動が広がり、さらに深めていくことができるような場所や時間を守るように保育を行うように努めた。特に、友だちといるたのしさ、うれしさを感じ合い、互いに刺激を受け合いながら育っていけるように保育を行った。

#### ◆子どもたちに豊かな感性が育つようなどりくみや自発的なあそびをとりくめるように保育をおこなってきたか

自発的なあそびの意欲を育むには環境構成が大切であることを、園の全体会議や学年ミーティングで繰り返し確認した。表現活動を大切に、子ども自身が美しさなどを発見し、あそびに反映させていくことができるような環境を整えていくことを大切に、保育をおこなう取り組みをしている。

### 【重点的に取り組む事項】

#### ◆保育の一元化（短時間保育・長時間保育の構成）

- 短時間保育と長時間保育の整合性を図り、保育の一体化を再構築する
- 長時間保育の内容を見直し、11時間保育のあり方を再確認して、実際の保育に反映させていく

勤務時間を調整し、長時間・短時間職員が共通でミーティングを行うことを意識した。時間調整は難しいが、子どもたちについて、できるだけ話し合う機会をつくることで、全職員がより良い保育につなげていけるようになってきた。長時間保育担当職員が短時間保育の時間も保育にかかわることで、より子どもの11時間を考えて保育を展開できるようにした。

#### ◆園の保育方針に沿った保育活動の再確認をおこない、保育の質の向上につなげる

- 園の基本スタンスを全職員で再確認し、何を大切にどのような保育を展開していくのかとの共通理解を図り、保育活動を行う。

---

年度当初にこどもの木かげのコンセプトや幼稚園の保育方針などを確認する会議を開き、大切にしたい保育の視点を全職員で確認してスタートすることができた。この会議は今後継も継続していくとともに、年度当初のみではなく、中間でも確認するなど、より意識をして保育を高められるようにしていきたい。また、年度末には、1年を通して保育活動の振り返りと合わせて園の保育方針の再確認をし、次年度に繋げていく。

◆良好なコミュニケーションと意欲の持てる職場づくりをすすめる

- ・職員ひとりひとりの個性を尊重し、互いに高めあいながら意欲をもって仕事にとりくむ
- ・保育内容や個々の子どもの成長・発達に関する話し合いを深め、子どもたちの成長・発達を支える喜びを感じながら、協力し合う体制を整えていく

学年ごとのふりかえりを毎日おこなうようになり、各自のふりかえりでは気付かなかった点も確認できるようになった。中堅職員が増えたので、それぞれの力を発揮できるように、会議の場での発言や子どもに関する話し合いでの意見発信を促し、職員が一体感をもって協力しあって保育に臨むようにしている。

### 3. 今後の課題、取り組んでいきたいこと

- 1 保育方針に沿った保育活動の再確認を行う。その際、何を大切にどのような保育を展開していくか、領域にとらわれずに子どもの興味や関心、生活の様子を考慮して指導計画を作成する
- 2 子どもが自分であそび、自分で学ぶことができるような保育の流れと保育環境を整えるように、指導計画の立案について再検討する。短時間保育の生活・長時間保育の生活、それぞれの特性をいかしていく。
- 3 PDCAサイクルをさらに意識して取りくんでいく。振り返りを丁寧に言い、活動の評価をすることで、次の目標を見出ししていくことを、日常の保育や会議の場で取り入れる。
- 4 園としての大切に考えてきた取りくみを継続して行う。
  - 園のこだわりのある表現活動の「描画活動」については、豊かな感性が育つような活動を「基本的なマニュアル」として作成し構築する
  - 「食育」については、食育全般の維持を共通の理解とし、子どもの生活・食をとおして計画し活動していく。
  - 「絵本」を通しての取りくみに力を入れていく。課題であった年令別・分類別リストを完成させ、保護者に対しても絵本の大切さと呼びかけていく。

---

### 【運営委員（学校関係者評価）の評価】

#### 1 当年度の活動状況について

園では、野のはな空のとり保育園と共通した62項目にわたる評価ポイントを年初に設定し、それを基礎として当年度の活動の「自己評価を行った。個々の評価項目については概ね達成としており、また今後の保育向上のための新たな課題も見出ししており、全体としてよい取り組みが行われるものと評価できる。年初の職員の意識合わせ、PDCAサイクルの充実、新任職員のおOJT及びメンターの選定、中堅職員の活用などを通じ、職員の意識を向上させ、園の保育理念・保育方針に従い、目指す子ども像に導くための取りくみを行っている。従来は、個々の先生方の力量によるところが大きかったクラス運営も、こどもの木かげとして統一性のある運営を行うための努力が見て取れ、高く評価できる。

#### 2 今後のとりくみ

自己評価にあるように、職員間の連携を深め、全体として、また個々に子どもの学びを助け、保育環境を整えていくことについて運営委員会も同意した。加えて委員からは、保護者の意識を高めたり、園と保護者の相互協力が得られるように、情報提供にとどまらずに積極的な働きかけをしてはどうかとの意見があった。また、園の保護者でもある委員からは、職員が何らかの事情で退職した場合等の子どもたちに与える影響が最小限となるように工夫してほしいと意見があった。

### 3 総合所見

今回の運営委員会による評価は、こどもの木かけ独自の取りくみであり、初めての試みであった。評価の枠組みの決定、園による自己評価、運営委員会による評価のプロセスの中で、保育に傾ける熱意や園に対する誇りが感じられ、非常に熱心であるとの印象がある。職員間の連携が多様に図られ、教育機関として確実に成果を上げていることが感じられる。こどもの木かけは、幼保一元施設のパイオニアであり、15年前から試行錯誤を繰り返し、時代のニーズに応えながら変わらぬ保育理念を貫いている。今後も長時間・短時間保育の特性を生かし、さらに質の高い保育を目指していただきたい。